DRUG INFORMATION ご使用前に必ず外箱記載事項を読み、注意事項を守って使用してください。

動物用医薬品 要指示医薬品 指定医薬品 犬糸状虫症予防・消化管内線虫駆除剤

イベルメック®DSP

成分及び分量	【本剤1個中】 成分／製品名：イベルメック®DSP −34：イベルメクチン 34μg、パモ酸ピランテル 81mg イベルメック®DSP −68：イベルメクチン 68μg、パモ酸ピランテル 163mg イベルメック®DSP−136：イベルメクチン 136μg、パモ酸ピランテル 326mg イベルメック®DSP−272：イベルメクチン 272μg、パモ酸ピランテル 652mg
効能又は効果	犬：犬糸状虫の寄生予防 犬回虫及び犬鉤虫の駆除
用法及び用量	本剤は犬糸状虫感染開始後1カ月から感染終了後1カ月までの期間、毎月1回、1カ月間隔で摂取させる。 ●**イベルメック®DSP −34**：体重1kg当たりイベルメクチン6μg、パモ酸ピランテル14.4mgを基準量として、体重5.6kg以下の犬に本剤を1個摂取させる。 ●**イベルメック®DSP −68**：体重1kg当たりイベルメクチン6μg、パモ酸ピランテル14.4mgを基準量として、体重5.7〜11.3kgの犬に本剤を1個摂取させる。 ●**イベルメック®DSP −136**：体重1kg当たりイベルメクチン6μg、パモ酸ピランテル14.4mgを基準量として、体重11.4〜22.6kgの犬に本剤を1個摂取させる。 ●**イベルメック®DSP −272**：体重1kg当たりイベルメクチン6μg、パモ酸ピランテル14.4mgを基準量として、体重22.7〜45.3kgの犬に本剤を1個摂取させる。 〈体重別投与表〉
有効期間	36カ月
使用上の注意	【基本的事項】 1.守らなければならないこと (一般的注意) ・本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。 ・本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。 ・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。 (取扱い及び廃棄のための注意) ・本剤の外観又は内容物に異常が認められた場合は使用しないこと。 ・本剤は有効期間を設定してある動物用医薬品なので使用期限を過ぎた製品は使用しないこと。 ・小児の手の届かないところに保管すること。 ・本剤の保管は直射日光及び高温を避けること。 ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。 ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。 2.使用に際して気を付けること (使用者に対する注意) ・誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。 (犬に関する注意) ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。 【専門的事項】 ①対象動物の使用制限等 ・本剤の投与前には健康状態について検査し、異常のある犬には投与しないこと。 ・本剤は離乳前の子犬には投与しないこと。 ・コリー犬及びその系統の犬種に対し、イベルメクチンが神経毒性を示すおそれがあるという報告があることから、コリー犬及びその系統の犬種に投与する際は慎重投与すること。 ②重要な基本的注意 ・本剤の投与前には犬糸状虫感染の有無を集虫法，抗原検査法等により検査し、犬糸状虫感染犬に投与する場合は、成虫及びミクロフィラリアを駆除するなど適切な処置を行い、投与の可否について慎重に判断すること。 ・過剰投与にならないよう、本剤の投与前には体重を測定すること。 ・本剤は、犬糸状虫成虫には効果がないため，成虫駆除を目的として使用しないこと。 ③相互作用 ・本剤を他の犬糸状虫症予防薬あるいは、犬回虫、犬鉤虫駆虫薬と併用しないこと。 ④副作用 ・本剤の投与により、食欲不振、嘔吐、下痢（軟便）、元気消失、歩様異常、痙攣、流涎がみられることがある。 ・本剤を犬糸状虫感染犬に投与することにより、急性犬糸状虫症（大静脈症候群）、食欲不振、嘔吐、下痢（軟便）、元気消失、歩様異常、痙攣、流涎及び皮膚アレルギー症状（発赤、そう痒）がみられることがある。

サイズ	製品名	対応体重
S	イベルメック®DSP−34	5.6kg以下
M	イベルメック®DSP−68	5.7〜11.3kg
L	イベルメック®DSP−136	11.4〜22.6kg
LL	イベルメック®DSP−272	22.7〜45.3kg

イベルメック はフジタ製薬株式会社の登録商標です。

投薬日をメールでお知らせする安心・便利な
投薬日お知らせサービス
http://www2.fujita-pharm.co.jp/pi/
へアクセスしてください。携帯からアクセス

■製造販売元
フジタ製薬株式会社
東京都品川区上大崎2丁目13番2号
http://www.fujita-pharm.co.jp

■販売元
物産アニマルヘルス株式会社
大阪府大阪市中央区本町2丁目5番7号
https://www.bussan-ah.com

NOR
3124AH

bah
bussan animal health

続けやすいフィラリア予防

ずーっと一緒にいたいから、長く付き合えるお薬を。

おいしいチュアブルで健康管理

月1回のお楽しみ

動物用医薬品 要指示医薬品 指定医薬品

犬糸状虫症予防・消化管内線虫駆除剤

イベルメック®DSP

- 犬の嗜好性を追求した、飼育履歴のわかる、国産牛正肉使用！
- ユニークな骨型のソフトなチュアブル！
- 処方実績を重ねた、信頼の国産ブランド

bah 物産アニマルヘルス

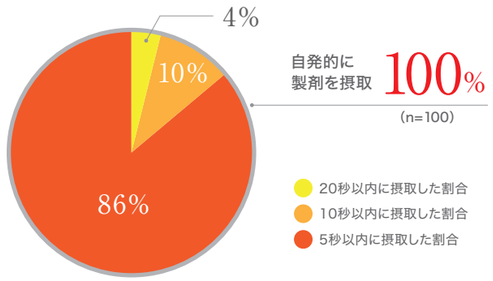
「おいしさ」を追求した

ソフトなチュアブル製剤

毎月１回の投薬を確実にするために、
薬の効果だけではなく、おいしさや
使いやすさなども考えて開発されました。

投薬した100%の犬が自発的に摂取

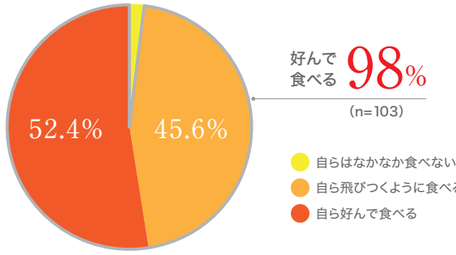
イベルメック®を100頭の犬に投薬したところ、全ての犬が自発的に製剤を摂取。
5秒以内に自発的に製剤を摂取した犬の割合は、86%と高い嗜好性を示しました。



［データ提供：フジタ製薬株式会社］

98%の飼い主様が「好んで食べる」と回答

イベルメック®を投与している飼い主様を対象に、イベルメック®の食べ方について伺ったところ、「自ら飛びつくように食べる」と「自ら好んで食べる」という回答の合計が98%にのぼりました。



［イベルメック®を投与している飼い主様を対象とした
外部調査会社によるインターネット調査］

原材料と形状へのこだわり

イベルメック®に使用されている牛肉には、飼育履歴がわかる国産牛正肉を使用。
食肉検査に合格した人間の食肉用の正肉のみを使用しています。

ユニークな
骨型の形状。
S、M、L、LLの
全4サイズ。

嗜好性を確認できる味見本

イベルメック®製剤と同じ原材料で製造された、有効成分を含まない味見本をご提供しています。
製剤の嗜好性、各種アレルギーの確認にご使用いただけます。

処方実績でみる安全性

＊2007年～2016年まで

発売以来、
10年間*での処方数 延べ1,106万頭（推定）

（処方数は特約店へのイベルメック® PI/DSP出荷数量から、処方コンプライアンス5回として推計。）

動物病院からの異常所見報告

報告数 239例　発生率 0.00216%

異常所見発生率（0.00216%）の内訳※と発生頻度（%）

- 嘔吐：0.00081%
- 下痢・軟便：0.00052%
- 元気消失：0.00012%
- 食欲不振：0.00010%
- 顔面腫脹：0.00005%
- 興奮：0.00002%
- 痙攣：0.00008%
- 死亡：0.00006%
- 掻痒：0.00004%
- 発赤：0.00001%
- 起立不能：0.00007%
- 流涎：0.00001%
- 便量・便回数増加：0.00001%
- 蕁麻疹：0.00001%
- 神経症状：0.00002%
- 血尿：0.00001%
- 呼吸促拍：0.00001%
- 尿着色：0.00004%
- 排尿困難：0.00001%
- 膀胱麻痺：0.00001%
- 多飲多尿：0.00001%
- 頻尿：0.00001%
- 血液生化学検査値異常：0.00001%
- アジソン病様反応：0.00001%
- 歩行異常：0.00003%
- 血便：0.00003%
- 眼周囲腫脹：0.00002%
- 頻脈：0.00001%
- ショック症状：0.00002%
- 虚脱感：0.00002%
- 心室細動：0.00002%

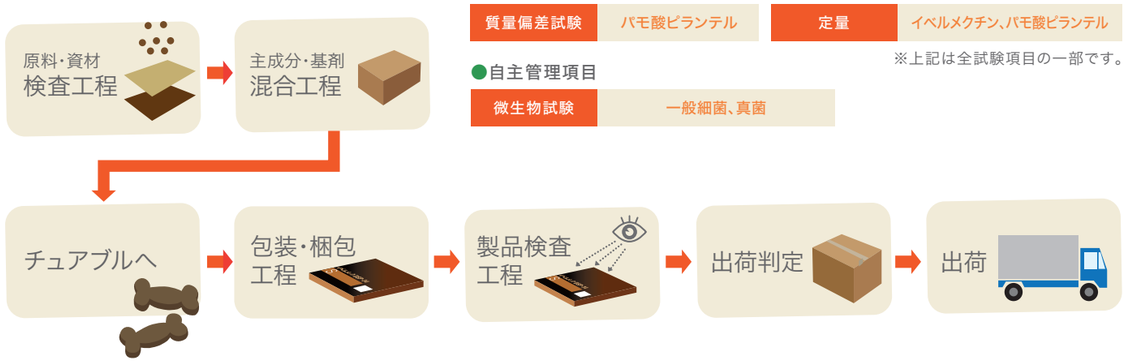
※症例重複あり

※イベルメック®とは、イベルメック®PIとイベルメック®DSPを指します。

厳格な衛生管理・品質管理

国内自社工場で製造

イベルメック®は最新設備を備え、厳格に管理された安心の国内自社工場で製品化されています。



●試験項目一覧

農林水産省に承認された規格および検査方法で、
厳密な品質管理を行っています。

微生物試験	大腸菌群、サルモネラ	含量均一性試験	イベルメクチン
質量偏差試験	パモ酸ピランテル	定量	イベルメクチン、パモ酸ピランテル

※上記は全試験項目の一部です。

●自主管理項目

微生物試験	一般細菌、真菌

使いやすさを追求した外箱

● 6個入（トレー包装）

糊付けを内側に。一度開けても
きれいな箱の状態で処方可。

6個入外箱に+2個入る設計

6個入りの外箱には、さらに2個入るスペースを確保しました。8個まで処方の対応ができます。外箱のふた部分は、内側の耳の面だけに糊付け、一度開けても化粧箱の外観上に影響しないように配慮しています。

大切な家族だから

ず～っと一緒にいたいから、長く付き合えるお薬を。

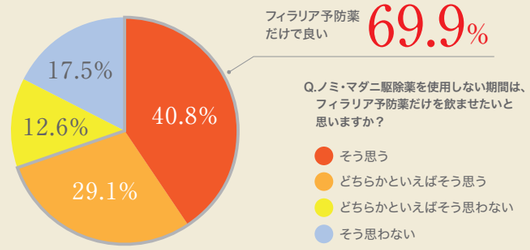
大切な家族が生涯付き合っていくお薬、
投薬ではできるだけ体に負担をかけたくない。

年齢や環境に応じて薬を与えたり、
体内に入りづらいスポット剤や
おいしくて与えるのが楽しい薬を選んだり・・・

一生使う薬を選ぶことは、家族を想う愛情です。

ノミ・マダニ駆除薬を使用しない期間は フィラリア予防薬だけで良いと思う飼い主様は69.9%

飼い主様にも、薬を使い分けるべきではと考えている方が多くいらっしゃいます。



外部インターネット調査より：全国の犬の飼い主様103名